

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年1月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所の母体となるエネルギー会社において、配達などを通じ高齢者独居世帯が増え、日常生活に不安を抱えている声を見聞きし「高齢者のお役にたてることはないか」という思いのもとグループホームを運営しています。お一人お一人の思いに寄り添い、ご家族・地域との関わりを保ちながらその人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に過ごしています。地元小・中学生との交流が実現し、職員の中のキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座を開講、またホームへの訪問がありおやつ作りやゲームなどで楽しい時間を過ごしました。地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広い玄関ホールを利用し、テーブルを並べ、月に何度かユニット合同の食事会を実施し、お互いに行き来がしやすい関係作りに努めている。ウェルネス通貨を作り、事務所を駄菓子屋に見立て、利用者に買い物を楽しんでもらっている。畑仕事得意な職員が退職し困っていた所、地域市民センターで畑仕事を手伝ってくれる方を紹介してもらった。開園当初に比べ、野菜の種類も増え、食卓を賑わせている。運営推進会議の出席者との関係も密になり、事業所で催す行事に積極的に参加し手伝ってくれ、利用者家族とも交流が出来る。地域に根ざし、地域と連携し、地域貢献に努め、信頼できるホームづくりに日々取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念の唱和をしている。月一回各ユニットリーダーとのリーダー会議、またユニットでのユニット会議において入居者の思いを共有し実践できるようにしている	日々利用者の希望する事・出来る事を考え、利用者中心の安全で安心して暮らせる生活支援に努めている。現在も変わらず地域貢献に日々努め、現在キャラバンメイト活動に力を入れて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域秋祭りの参加 津川小学生の訪問 高梁東中学生の訪問 畑作りで近隣の方々の訪問 交流は積極的に行っている	小学校の教頭先生が、毎月学校新聞を持って行事案内をしてくれ、参加可能な場合は席を設けてくれる。また生徒がこまめにプランターの花の交換をしてくれ、慰問回数も前年度より増え、利用者も喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津川小、高梁東中で認知症サポーター養成講座を開催 キャラバンメイト交流会の参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の様子の報告、行事・研修についての報告、行事や地域交流について意見交換 家族の参加は増えなかったが行事の裏方を家族と運推委員とが協力することで交流につながっている	運営推進会議は開設当初より参加者が変わらず、行事予定を案内すると、自分達が参加出来るかどうか直ぐスケジュールを確認し、その場で各々の役割を決め、何事にも積極的に協力してくれる関係作りが出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことは保険課に相談連絡している 運営推進会議において情報共有している キャラバンメイトの活動を協力している	運営推進会議に参加してくれ、何かと相談にも乗ってもらっている。小学校や中学校で実施した認知症サポート養成講座では、地域包括センターの職員が事前打合せから本番迄協力してくれ、生徒から好評だった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人記録の言葉の使い方、日頃の声かけや対応の方法、薬の服用について、常にユニット会議で相談し連携している	以前は利用者が車椅子から急に立ち上がると危険だと考え、言葉の抑制をしていたこともあった。現在は、利用者が安全・安心して暮らせるなら、一人ひとりの思いを尊重したいと考え、自然と身体拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議、ユニット会議にて入居者1人1人の情報を把握し安全安心に生活できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人が決定 後見人の方からも制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・重要事項の説明をお互い納得できるように丁寧に説明している 疑問な点はいつでも問い合わせができるよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を面会時だけでなく電話でも伝え意見要望を聞いている 出来ることは何でもさせてほしい、草取り等させてほしいなど出てきた要望は会議にて報告しケアプランにも反映している	家族の希望を取り入れたケアを実践したいと考え、訪問時や電話の会話の中で出た要望を汲み取り、ケアプランに記載している。また家族が意見を述べやすい様に、利用者の日頃の様子の情報発信に努めている。	家族への情報発信に努めているが、家族からの発信が決まった方のみとなっている。なかなか訪問出来ない家族には、こまめな電話連絡をしてみるのも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議では自由に個々の意見が発言できる環境があり、そこで出た意見はリーダー会議で報告・相談している	ホーム長が職員から出た意見を柔軟に取り入れてくれるので、提案がしやすい。最近通った提案は、各ユニットの介護度が違う為、別々の勤務体制で働きたいだった。各々利用者にあったスケジュールで日常生活を無理なく送れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日中活動時間を充実させるため勤務時間を変更している 昇給、賞与(2回)支給 希望休が取れる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、リーダー研修、自施設での入居者体験、接遇研修(年4回)の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種の交流会の参加 キャラバンメイト連絡会への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・面談で本人からの情報収集、入居前のケアマネとの情報収集などこまめに行い安心できるサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所間もなくは電話での連絡を密に行い、本人の様子を伝えながらご家族の要望に耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてからの様子を見極め、ご家族の要望も反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、食事作りなど一緒に行っている 行事の準備や季節の壁飾りなど入居者と一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援、外食支援、行事への参加、担当者会議での意見交流、定期受診の付添をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会、友人からの電話、行きつけの美容室への外出、自宅への外出・外泊などしている	ほとんどの利用者が地元の方なので、自宅に居る時と同じように、友人・元隣人がふらりと訪ねてくれる。受診の際は、必ず馴染みの八百屋に寄り、大好きな芋を購入して戻って皆に振舞ってくれる方もいる。他施設に入居している奥様もご主人に会いに来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	就寝以外の時間帯は常に皆さんと一緒に過ごされる 一緒に入浴したり、起床時に声を掛け合ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ転所された方がおり、特養の担当ケアマネと連絡を取り合っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人としっかり話のできる時間を作っている 馴染みの物の持ち込みや写真を飾るなど本人の意向に合わせて対応している	利用者をより深く理解する為に、バックグラウンドシートを作成しケアに活かしている。利用者の希望で、同じユニット内の居室を変更することもあるが、今回利用者や家族のたつての希望で隣のユニットに移り、平穏な日々が送れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族またはこれまでサービスを受けていた担当ケアマネからの情報、バックグラウンドの作成、フェースシートにて把握に努め、本人からも会話の中から暮らしぶりを知るよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に過ごし方、状態について記録している バイタルチェック、食事、排泄の記録をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきについてユニット会議の中で意見交流し介護計画に反映している 席替えや居室の入れ替わり、外出支援の方法など家族を交え会議を行っている	訪問時・電話連絡の際に、利用者の暮らし方に対する希望を聞きだして記載し、意向に添った介護計画を作成している。作成後、遠方の家族には電話で変更箇所を伝え、再度訪問時に必ず書面を見せながら説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行いケアの実践の記録を行っている 個人記録を日中・夜間記入し情報共有している 申し送りノートを活用し連携している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添、美容院の付添など通常家族にお願いしているが、その時々に応じ対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中学校と交流を持ち訪問してもらい、食事やおやつ作り、ゲーム等で楽しい時間を過ごす 地域の方に畑作り、収穫など手伝ってもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に家族支援での受診や往診している方以外は、近くの開業医と連絡を取り合い職員対応で受診している	基本は以前からのかかりつけ医で継続受診している。家族の意向で巨瀬にある野村医院に変更している利用者もあり、往診もしてくれるので、他の利用者とも顔馴染みになっている。24時間いつでも医師と連絡が取れる体制で、安心が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職のみでのケアであるが、バイタルチェック、入浴時の身体の変化、日常生活での気づきで不安があるときは主治医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	高梁市の情報共有書を利用している 病院の担当者と連絡を取り電話や直接出向き相談するようしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族、病院と方針を話し合い共有している 状況に応じて何度も話し合いをしている	ご縁があり、入居してもらった利用者を最期まで世話したい気持ちはあるが、現在は看取りをしていない。介護者では対応できない医療行為が必要になった場合、特別養護老人施設等への申込をお願いしている。現在皆元気で重篤な利用者は居ないが、これからの課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージ、AEDの訓練を年1回行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施 地元消防団の協力があり避難誘導、消火訓練している	毎回課題を挙げて避難訓練を実施している。今回は「声だし」を中心に実施したが、「火事だ」と大声をあげることがなかなか難しいと解った。次回は、消防署や消防団に協力してもらう予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心して生活できるよう職員同士で言葉かけに気をつけている 「その一言で…」を入居者と一緒に唱和している	口腔体操で「その一言」を唱和し、その一言で相手を傷つける可能性があることを利用者と共に再確認している。ホーム長と管理者が利用者の気持ちを大切にしたいと常に発信し、職員も利用者の気持ちを考えながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	編み物を希望され取り組まれている 外回りの掃除を一人でやりたいと希望され毎日されている やりたいと言われることは出来るように、また希望が聞けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心とにならないよう声かけをし努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧の支援、洗濯機での洗濯が難しいもの(ウール製品等)もあるが着れるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや野菜切りを一緒に行ったり食後の後片付け、食器拭きは毎日行っている 誕生日の時にはその人の好みの物やホールケーキで祝い 季節の行事食で昔話を聞きながら楽しみとしている	一時期外部委託を行っていたが、味気ない食事を提供するの辛いとの職員意見から、手作りに復帰した。冷蔵庫にたくさんの食材を保管し、利用者のその日の気分に応じたおかずを作っている。利用者がいつも野菜を切る等の下ごしらえを手伝ってくれるので、職員も助かっている。一汁三菜を基本にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やお水が飲みにくくなった方には砂糖水にして飲みやすくしている やわらかいものや調理の過程で工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと介助を実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握しその人に合った声かけを行っている	本人の意向や排泄パターンを分析し、職員と管理者が何度も話し合い、利用者にとって一番良い排泄支援(ポータブル等)を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は常に行っている 本人の希望で乳製品を飲用される方がおられる 日頃から野菜を多く取り入れる食事メニューに心がける		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴は難しいが現状の入浴時間の中で本人にとって楽しめる入浴時間となるよう声かけの工夫や入浴中の会話の支援を行っている	以前拒否していた利用者が、職員の声かけや対応の仕方を工夫した結果、現在は別の入浴拒否の利用者に「お風呂は気持ち良いよ。一緒に入ろう」と誘ってくれている。受診日や外出前日にも、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なシーツ交換、布団干しを行う 状況に合わせて対応し安心できるよう会話、お茶の提供、手・足浴などの支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の説明書を常に閲覧できるようにしている 薬は職員が管理し服薬の際にも服用の確認を行っている 主治医と連携を取り報告・相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムを整え、朝の掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器拭きなど個々に合った支援を行っている ドライブや散歩、草取りなどの気分転換をしている 編み物・パズルなど本人の指揮な楽しみ事も見つけ希望に添える支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大きなお風呂に入りたいとの希望あり、温泉へ出かけた 敷地内の散歩や近所への散歩 他施設におられる身内の方への面会支援 家族の協力にて買い物へ行かれる 外へ出かけられるよう支援を行っている	気候が良い日は、事業所の周りを散歩している。利用者から「みかんが食べたい」「大きなお風呂に入りたい」「お墓に行きたい」といわれ、希望を叶えた。日頃は、他施設に入所している奥様に会いに行ったり、思い立ったらぶらっとドライブに出掛けたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持する事はトラブル防止の為断っているがお小遣いとして少額を預かっており、外出時や本人希望の物の買い物等出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行き、部屋でゆっくり話してもらっている かけたいときにも対応している 手紙の代筆の支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや各ユニット、居室の入り口に季節の飾りつけをしている 常に音楽を流し心地いい雰囲気作りを心掛けている	玄関を入ると、運営推進委員である元公民館長から贈られたひな壇が迎えてくれる。来月は五月人形を持参すると言われ楽しみにしている。フロアは床暖房を取り入れ、毎日温度・湿度管理を行い、加湿器を置いたり、洗濯物を干したり乾燥対策を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士一緒にすごせるようにしている 距離を保ちたい方にはテーブルを別に用意するなど配慮している 玄関ホールにもテーブル・椅子を設置することで思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や思い出の品(写真や神楽の面等)を自由に持ち込めるようしている	自宅の延長先に事業所の居室があると考え、使い慣れた布団等を持参してもらっている。現在は病院から直接入居される利用者が増えた為、ベッドの貸し出しも開始した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの中で安心して生活できるようにしている 洗濯物を洗濯かごに出す事や片づけるなど出来ることは続けられるよう支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390900086		
法人名	有限会社ウェルネス・プランニング		
事業所名	グループホームウェルネス津川		
所在地	高梁市津川町今津1826-1		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所の母体となるエネルギー会社において、配送などを通じ高齢者独居世帯が増え、日常生活に不安を抱えている声を見聞きし「高齢者のお役にたてることはないか」という思いのもとグループホームを運営しています。お一人お一人の思いに寄り添い、ご家族・地域との関わりを保ちながらその人らしく暮らし続けられるよう支援しています。職員一同「笑顔」を大切に過ごしています。地元小・中学生との交流が実現し、職員の中のキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座を開講、またホームへの訪問がありおやつ作りやゲームなどで楽しい時間を過ごしました。地域の方・ご家族との関係も大切にしたいと考え、行事への参加時に食事作りなどでお手伝いいただき、職員・ボランティアとの交流の場となるよう働きかけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390900086-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年1月12日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念の唱和をしている。月一回各ユニットリーダーとのリーダー会議、またユニットでのユニット会議において入居者の思いを共有し実践できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域秋祭りの参加 津川小学生の訪問 高梁東中学生の訪問 畑作りで近隣の方々の訪問 交流は積極的に行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津川小、高梁東中で認知症サポーター養成講座を開催 キャラバンメイト交流会の参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の様子の報告、行事・研修についての報告、行事や地域交流について意見交換 家族の参加は増えなかったが行事の裏方を家族と運推委員とが協力することで交流につながっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことは保険課に相談連絡している 運営推進会議において情報共有している キャラバンメイトの活動を協力している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人記録の言葉の使い方、日頃の声かけや対応の方法、薬の服用について、常にユニット会議で相談し連携している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議、ユニット会議にて入居者1人1人の情報を把握し安全安心に生活できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人が決定 後見人の方からも制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・重要事項の説明をお互い納得できるように丁寧に説明している 疑問な点はいつでも問い合わせができるよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を面会時だけでなく電話でも伝え意見要望を聞いている 出来ることは何でもさせてほしい、草取り等させてほしいなど出てきた要望は会議にて報告しケアプランにも反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議では自由に個々の意見が発言できる環境があり、そこで出た意見はリーダー会議で報告・相談している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日中活動時間を充実させるため勤務時間を変更している 昇給、賞与(2回)支給 希望休が取れる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、リーダー研修、自施設での入居者体験、接遇研修(年4回)の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種の交流会の参加 キャラバンメイト連絡会への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・面談で本人からの情報収集、入居前のケアマネとの情報収集などこまめに行い安心できるサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所間もなくは電話での連絡を密に行い、本人の様子を伝えながらご家族の要望に耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてからの様子を見極め、ご家族の要望も反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、食事作りなど一緒に行っている 行事の準備や季節の壁飾りなど入居者と一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援、外食支援、行事への参加、担当者会議での意見交流、定期受診の付添をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会、友人からの電話、行きつけの美容室への外出、自宅への外出・外泊などしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	就寝以外の時間帯は常に皆さんと一緒に過ごされる 一緒に入浴したり、起床時に声を掛け合ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ転所された方がおり、特養の担当ケアマネと連絡を取り合っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人としっかり話のできる時間を作っている 馴染みの物の持ち込みや写真を飾るなど本人の意向に合わせて対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族またはこれまでサービスを受けていた担当ケアマネからの情報、バックグラウンドの作成、フェースシートにて把握に努め、本人からも会話の中から暮らしぶりを知るよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に過ごし方、状態について記録している バイタルチェック、食事、排泄の記録をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきについてユニット会議の中で意見交流し介護計画に反映している 席替えや居室の入れ替わり、外出支援の方法など家族を交え会議を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行いケアの実践の記録を行っている 個人記録を日中・夜間記入し情報共有している 申し送りノートを活用し連携している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添、美容院の付添など通常家族にお願いしているが、その時々に応じ対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中学校と交流を持ち訪問してもらい、食事やおやつ作り、ゲーム等で楽しい時間を過ごす 地域の方に畑作り、収穫など手伝ってもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に家族支援での受診や往診している方以外は、近くの開業医と連絡を取り合い職員対応で受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職のみでのケアであるが、バイタルチェック、入浴時の身体の変化、日常生活での気づきで不安があるときは主治医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	高梁市の情報共有書を利用している 病院の担当者と連絡を取り電話や直接出向き相談するようしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族、病院と方針を話し合い共有している 状況に応じて何度も話し合いをしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージ、AEDの訓練を年1回行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施 地元消防団の協力があり避難誘導、消火訓練している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心して生活できるよう職員同士で言葉かけに気をつけている 「その一言で・・・」を入居者と一緒に唱和している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	編み物を希望され取り組まれている 外回りの掃除を一人でやりたいと希望され毎日されている やりたいと言われることは出来るように、また希望が聞けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心とならないよう声かけをし努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧の支援、洗濯機での洗濯が難しいもの(ウール製品等)もあるが着れるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや野菜切りを一緒に行ったり食後の後片付け、食器拭きは毎日行っている 誕生日の時にはその人の好みの物やホールケーキで祝い 季節の行事食で昔話を聞きながら楽しみとしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やお水が飲みにくくなった方には砂糖水にして飲みやすくしている やわらかいものや調理の過程で工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと介助を実践している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握しその人に合った声かけを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は常に行っている 本人の希望で乳製品を飲用される方がおられる 日頃から野菜を多く取り入れる食事メニューに心がける		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴は難しいが現状の入浴時間の中で本人にとって楽しめる入浴時間となるよう声かけの工夫や入浴中の会話の支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なシーツ交換、布団干しを行う 状況に合わせて対応し安心できるよう会話、お茶の提供、手・足浴などの支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の説明書を常に閲覧できるようにしている 薬は職員が管理し服薬の際にも服用の確認を行っている 主治医と連携を取り報告・相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムを整え、朝の掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器拭きなど個々に合った支援を行っている ドライブや散歩、草取りなどの気分転換をしている 編み物・パズルなど本人の指揮な楽しみ事も見つけ希望に添える支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大きなお風呂に入りたいとの希望あり、温泉へ出かけた 敷地内の散歩や近所への散歩 他施設におられる身内の方への面会支援 家族の協力にて買い物へ行かれる 外へ出かけられるよう支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持する事はトラブル防止の為断っているがお小遣いとして少額を預かっており、外出時や本人希望の物の買い物等出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行い、部屋でゆっくり話してもらっている かけたいときにも対応している 手紙の代筆の支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや各ユニット、居室の入り口に季節の飾りつけをしている 常に音楽を流し心地いい雰囲気作りを心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士一緒に過ごせるようにしている 距離を保ちたい方にはテーブルを別に用意するなど配慮している 玄関ホールにもテーブル・椅子を設置することで思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や思い出の品(写真や神楽の面等)を自由に持ち込めるようしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの中で安心して生活できるようにしている 洗濯物を洗濯かごに出す事や片づけるなど出来ることは続けられるよう支援している		